

まちひとしごと

Vol. 55

北海道倶知安高等学校

校長 たにかわ けいいち 谷川 敬一 さん

つないでできた伝統と共に 地域に愛される学校を



校長として、4月から倶知安
高校に着任した谷川敬一さ
んは、名寄市で生まれ、砂川市で
高校までを過ごした。

現在は、趣味の園芸に親しみ、
トマトや朝顔などを育てる。今後
は、せっかく自然豊かなところで
暮らしているの、山歩きなども
楽しみたいと話す。

そんな彼が、教員を志したきつ
かけは小学生の頃だった。大学卒
業後に英語科の教員として歩みを
始め、函館市や札幌市の高校など
で勤務。今年で教員生活は36年目
を迎えた。

「小学生の頃から、ぼんやりと

『学校の先生か弁護士になりたい』
と考えていました。そのような時
期に、親から『学校の先生は社会
の役に立つ』と言われ、教員を目
指すようになりました」

自分のことを『英語トレーニン
グオタク』と話す谷川さん。学生
の頃から英語の勉強は楽しくて、
いつまでも続けることができた
といい、その英語好きは、高校の授
業などでも生かされ、教員生活に
大いに役立った。

「中学生の頃は苦手でしたが、
海外の人と話をしたいという思い
もあって勉強をはじめ、次第にの
めり込んでいきました。気が付い
た時には、どうすれば英語の力が
つくかなどをずっと考えていたほ
ど、英語のトレーニングが好きに
なっていました」

ここで暮らし始めて約半年、圧
倒的な存在感を放つ羊蹄山や、そ
の恵みを受けたおいしい水に感動
するなど、日々この町の良さを感じ
ているという。

これからは、地域のイベントに
参加するなど、学校外でも多くの
人たちと交流したいと話す。

「その地域の魅力を知るには、
まちの人たちと交流をしながら、
同じ目線で楽しむことが一番だと

思っています。ここは観光が有名
ですが、実際に生活している人だ
からこそ感じられるような魅力も
たくさんあると思います」

自身は、倶知安高校の校長に着
任して間もないものの、同校は今
年、開校から100周年の節目を
迎えた。

谷川さんは、この100周年は、
学校が地域に愛されてきた証だと
話す。それだけに校長として、こ
の学校がつないでできた伝統や思い
を、これからも生徒たちに伝える
ことが自身の役目だと語る。

「これだけの長い歴史を築けた
ことは、本当にすごいことだと感
じています。これからも『地域に
愛される』、『地域と共にある』学
校として、皆さんに協力してもら
いながら、生徒と地域のために学
校一丸となって力を尽くしていき
ます」

※まちひとしごとは不定期連載です